

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：20102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01260

研究課題名(和文)シベリア先住民諸語の方言に関する基礎的研究と語彙データベース構築

研究課題名(英文)Basic Research on Dialects and Lexicon of Siberian Indigenous Languages

研究代表者

永山 ゆかり(Nagayama, Yukari)

釧路公立大学・経済学部・准教授

研究者番号：20419211

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、シベリア先住民言語であるコリヤーク語およびアリュートル語(チュクチ・カムチャッカ語族)、イテリメン語、ユカギール語の諸方言につき、(1)方言差の観点から見た既存資料の整理、(2)公刊されていない方言資料の実態把握、(3)テキスト資料から抽出した語彙資料をもとに方言語彙データベースを構築した。これにより、各言語の方言語彙資料の実態を明らかにし、それらをもとに各方言の特徴と語彙レベルでの方言差を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で調査対象とするシベリア先住民言語は、主要ないくつかの言語・方言については比較的記述研究が進んでいるものの、それ以外の方言については包括的な記述がほとんど行われておらず、方言差の実態が不明である。調査・研究の進んでいない方言についての基礎資料を収集すること自体に大きな学術的意義がある。また、シベリア地域における諸言語の系統関係や類型論の研究は、既刊資料にのみ基づいて行われているのが現状であり、本研究により明らかにした希少方言の資料により、より精緻な研究を進めることが可能になったと言う点でも学術的な意義が大きい。

研究成果の概要(英文)：This study was conducted on the dialects of the Siberian indigenous languages Koryak, Alutor (Chukchi-Kamchatkan language family), Itelimen, and Yukagir, by (1) analyzing the existing data in terms of dialectal variations, (2) investigating unpublished dialectal materials and (3) constructing a dialectal lexical database based on the lexical data extracted from the textual materials. As a result, we clarified the actual situation of dialectal lexical materials for each language, and also clarified the characteristics of each dialect and the dialectal differences at the lexical level.

研究分野：言語学

キーワード：言語学 古アジア諸語 シベリア 危機言語 文法 方言 語彙

1. 研究開始当初の背景

シベリア先住民言語はそれぞれの言語内での方言差が大きく、相互に理解不能であることが多いにもかかわらず、資料の蓄積がないことから、詳細な方言研究はあまり進んでいない。たとえば、コリヤーク語とアリュートル語にはあわせて9つの方言があると見られているが、語彙に関する資料の蓄積が比較的多いのはそのうちの2方言にすぎない。そこで、この地域における言語の方言研究を精緻化するためには、資料の蓄積が少ない方言の語彙資料を集積し、各方言の実態を明らかにすることが不可欠である。

チュクチ・カムチャッカ語族については、コリヤーク語、アリュートル語、チュクチ語、イテリメン語の語彙を比較し、祖語の構築を試みた研究がいくつかあるが、方言資料については補足的に情報が添えられているにすぎない。とくに、コリヤーク語カーメンスコエ方言についてはまったく記載がないが、この方言はチュクチ語からの影響を強く受けていると考えられ、この地域の言語の連続性を研究するために重要である。また、既存の比較語彙辞典は見出し語として語幹を採用している上に、英訳しか付されておらず、現地コミュニティメンバーによる利用がきわめて困難である。したがって、先行研究に不足している資料を補完し、研究の進んでいない方言の語彙データベースを構築し、方言資料を共有することは、シベリア先住民言語の方言研究を精緻化のためにも、また、その言語が話されている地域コミュニティでの言語保存運動にとっても急務である。

2. 研究の目的

本研究では、シベリア先住民言語であるコリヤーク語およびアリュートル語(チュクチ・カムチャッカ語族)、イテリメン語、ユカギール語の諸方言につき、(1)方言差の観点から見た既存資料の集積と整理、(2)言語研究に利用されていない資料の実態把握、(3)テキスト資料に基づく語彙資料の抽出をおこない、語彙資料を集積して比較語彙データベースを構築し、それらをもとに各方言の特徴と語彙レベルでの方言差を明らかにすることをめざした。

3. 研究の方法

本研究ではシベリア先住民言語であるコリヤーク語・アリュートル語の諸方言を対象に、既刊・未刊の資料から語彙データを抽出し、語彙レベルでの方言差の実態を明らかにした。国際情勢の影響によりロシアでの現地調査を実施することができなかったが、代替手段としてオンラインによる調査や中央アジアでの研究協力体制を構築し、おおむね当初の計画どおりに研究を遂行することができた。代表者である永山はアリュートル語カラガ方言、コリヤーク語カーメンスコエ方言、アリュートル語パラナ方言の分析を行い、データのとりまとめとデータベースの整備を行った。これと並行して長崎はセリクープ語とユカギール語の、小野はイテリメン語の調査・分析とそれに基づく文法研究を行った。ロシアでの現地調査を実施することができなかったため、ロシアのアーカイブに収蔵されている、ソ連時代に収集された未整理の言語資料については、現地博物館学芸員らと共同で実態調査を行った。

4. 研究成果

研究目的を達成するために、状況に応じて現地調査方法を変更し、計画どおりにシベリア先住民言語の方言資料を整理・分析し、それらの資料にもとづき文法研究を進めた。また、資料調査においては新たにロシアの博物館学芸員らと協力体制を構築し、今後も共同研究を

継続していくことで合意した。また、海外で国際研究集会を開催するための国際共同体制を構築し、日本・ロシア・カザフスタンの研究者らによる国際協力ネットワークを形成することができた。

年度ごとの主な研究内容と研究成果は以下のとおりである。

(1) 2020 年度

新型コロナウイルス感染症の拡大により、当初予定していた海外フィールド調査を実施することができなかったため、母語話者やコミュニティメンバーと連絡をとりつつ、オンラインで作業を進められる体制づくりを行った。具体的には、コンピューターによる作業が可能な母語話者ならびにコミュニティメンバーに依頼し、新たな資料の収集ならびに過去に収集した資料のテキスト化を行った。また、電子化の終了した資料の整理・分析を進めた。アリュートル語およびコリヤーク語については 1950 年代から 60 年代にソ連の研究者が収集した方言資料の手書きノートならびにタイプ原稿の電子化を行ったほか、母語話者のインタビューおよび話者自身による手記をまとめ、ロシア語訳および和訳をつけて出版した。イテリメン語については過去に録音した会話・モノログの書き起こしおよび形態素分析を行った。また、ロシアで出版されたイテリメン語南部方言のテキストにアノテーション付与を行い、北部方言と南部方言の差異およびそれぞれにおける借用語等について検討した。さらに、資料を分析して得られた成果を論文として公開した。

(2) 2021 年度

2021 年度は、前年度と同様に母語話者やコミュニティメンバーと連絡をとりつつ、オンラインで作業を進めた。また、コミュニティメンバーの中からコンピューターによる作業が可能な新たな研究協力者を得て、アリュートル語の語彙カード、手書きのテキスト資料、過去に収集された音声資料の文字化等の作業を進め、語彙データベースの資料を拡充した。イテリメン語については前年度に引き続き、イテリメン語の会話・モノログの書き起こしおよび形態素分析を行い、北部方言と南部方言の語彙的差異および借用語等について検討した。またイテリメン語北部方言の民話の英語訳を行い、公開準備を進めた。このほか主に国内でできる資料分析に取り組み、資料を分析して得られた研究成果を国内外の学会での発表や、学術雑誌の論文として公開した。

(3) 2022 年度

2022 年度は国際情勢の影響により、予定していた時期に海外フィールド調査を実施することができなかったため、新たな調査方法を検討し、調査地を変更して改めて研究協力者と日程調整し、海外フィールド調査を実施した。海外フィールド調査ではアリュートル語およびコリヤーク語緒方言の未整理の音声資料について、母語話者の協力のもとにテキスト化した。電子化およびテキストデータベース化が終了している資料からの語彙データ抽出を進めた。また、整理・分析の終了したアリュートル語・コリヤーク語・ユカギール語のテキスト資料を出版した。さらに本研究課題で整理・分析を進めてきたアリュートル語、ユカギール語、イテリメン語のテキスト資料をもとに文法研究を進め、研究成果を国内外の学会で発表した。

(4) 2023 年度

最終年度である 2023 年度は、前年度までに整えた研究体制により海外現地調査を実施し、アリュートル語カラガ方言およびレスナヤ方言、コリヤーク語ミキノ方言の未整理の音声資料について、引き続き母語話者の協力のもとに整理・分析をすすめ、アノテーションを付した。テキスト資料から新たな語彙データを抽出し、方言比較データベースを拡充した。また、整理・分析の終了したアリュートル語・コリヤーク語諸方言の音声 CD つきテキスト資料をロシア語対訳つきで出版した。資料の少ないシベリア先住民言語の方言資料をアノテーションおよび音声つきで公開することで、シベリア地域での言語研究の発展に貢献することができた。また、カザフスタン共和国ナザルバエフ大学のシベリア言語研究者らの協力を得て、2023 年 8 月 12-13 日に同大学において国際シンポジウム 5th International Symposium on Northern Languages and Cultures: Linguistic and Cultural Heritage of Northern and Central Asia: Documentation and Description を開催し、カザフスタン・ロシア・日本の研究者および学生らとともにシベリア少数言語の方言研究に関する情報共有ならびに意見交換を行なった (<https://siblang-jp.net/events/isnlc-5/>)。これにより、シベリア先住民言語研究のための国際協力体制がさらに強化された。2024 年 3 月 1 日には釧路公立大学において「シベリア先住民諸語の方言に関する基礎的研究」2023 年度研究会 (<https://siblang-jp.net/ja/2024/02/26/2023-kakenhi/>) を開催し、本研究課題の総括と、本研究課題をさらに発展させた次の研究に向けて、今後の課題や問題点を明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 Yukari, Nagayama	4. 巻 36
2. 論文標題 Non-resultative forms in the Mikino dialect of Nymylan-Koryak	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 釧路公立大学紀要. 人文・自然科学研究	6. 最初と最後の頁 11-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 長崎郁	4. 巻 127
2. 論文標題 コリマ川に浮かぶ奇妙な島の由来と川沿いの山々にまつわる言い伝え	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Arctic Circle (北海道立北方民族博物館友の会・季刊誌)	6. 最初と最後の頁 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Jonathan David Bobaljik, David Koester, Chikako Ono, Georgi Dmitrievich Zaporotskij	4. 巻 Volume 99, Number 2
2. 論文標題 Text setting in an Itelmen khodila: A phonological analysis	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Language	6. 最初と最後の頁 e108-e134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1353/lan.2023.a900096	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Chikako Ono	4. 巻 -
2. 論文標題 System of 'sibling' terms in Chukotko-Kamchatkan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa III. ed. by Chitsuko Fukuchima, Satoko Shirai, Mika Fukazawa, Hiroyuki Suzuki and Mitsuaki Endo, Geolinguistic Society of Japan. Tokyo	6. 最初と最後の頁 9-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5281/zenodo.10223731	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chikako Ono	4. 巻 -
2. 論文標題 Alignment in Chukotko-Kamchatkan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa III. ed. by Chitsuko Fukuchima, Satoko Shirai, Mika Fukazawa, Hiroyuki Suzuki and Mitsuaki Endo, Geolinguistic Society of Japan. Tokyo	6. 最初と最後の頁 67-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5281/zenodo.10223731	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chikako Ono	4. 巻 -
2. 論文標題 Numeral systems in Chukotko-Kamchatkan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa III. ed. by Chitsuko Fukuchima, Satoko Shirai, Mika Fukazawa, Hiroyuki Suzuki and Mitsuaki Endo, Geolinguistic Society of Japan. Tokyo	6. 最初と最後の頁 146-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5281/zenodo.10223731	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagayama, Yukari	4. 巻 35
2. 論文標題 Changes in the Functions of the Word tita 'when' in Alutor	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 釧路公立大学紀要. 人文・自然科学研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長崎郁	4. 巻 13
2. 論文標題 北東シベリア諸言語の数詞における加法の表現	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北方言語研究	6. 最初と最後の頁 171-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小野智香子	4. 巻 187
2. 論文標題 イテリメン語のAspect接辞 -skne	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北海学園大学学園論集	6. 最初と最後の頁 35-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chikako Ono	4. 巻 1
2. 論文標題 Subgrouping of Paleoasian Languages.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa.	6. 最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5281/zenodo.7118188	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長崎郁	4. 巻 12
2. 論文標題 コリマ・ユカギール語の「迂言的過去」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北方言語研究	6. 最初と最後の頁 167-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永山ゆかり	4. 巻 0
2. 論文標題 アリュートル語の名詞的接頭辞	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 津曲敏郎先生古稀記念集編集委員会 (編) 『津曲敏郎先生古稀記念集』	6. 最初と最後の頁 146-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長崎郁	4. 巻 11
2. 論文標題 コリマ・ユカギール語の Supine : 統語機能と言語接触	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北方言語研究	6. 最初と最後の頁 17-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計14件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 Nagayama, Yukari
2. 発表標題 The Karaga Dialect of Alutor: A History of Research and Documentation
3. 学会等名 5th International Symposium on Northern Languages and Cultures. 'Linguistic and Cultural Heritage of Northern and Central Asia: Documentation and Description' (August 13, 2023, Nazarbayev University) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nagayama, Yukari
2. 発表標題 Inchoative-durative suffixes in Alutor and Koryak
3. 学会等名 : 70- (January 27, 2024, Institute for Linguistic Studies RAS, St. Petersburg, Russia) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 永山ゆかり
2. 発表標題 アリュートル語方言比較調査報告
3. 学会等名 「シベリア先住民諸語の方言に関する基礎的研究」2023 年度研究会 (2024年3月1日、釧路公立大学)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 長崎郁
2. 発表標題 ユカギール語の引用構造における引用標示部について
3. 学会等名 「シベリア先住民諸語の方言に関する基礎的研究」2023 年度研究会（2024年3月1日、釧路公立大学）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Nagasaki, Iku
2. 発表標題 Reporting Markers in Direct Speech in Kolyma Yukaghir
3. 学会等名 : 70- (January 27, 2024, Institute for Linguistic Studies RAS, St. Petersburg, Russia) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Ono, Chikako
2. 発表標題 Habitual suffix -at in Itelmen
3. 学会等名 : 70- (January 27, 2024, Institute for Linguistic Studies RAS, St. Petersburg, Russia) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小野智香子
2. 発表標題 コリヤーク語とイテリメン語の語彙比較
3. 学会等名 「シベリア先住民諸語の方言に関する基礎的研究」2023 年度研究会（2024年3月1日、釧路公立大学）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Nagayama, Yukari
2. 発表標題 On the contact of Chukchi-Kamchatkan (Koryak) languages with Russian
3. 学会等名 17th ANNUAL MEETING of the Slavic Linguistics Society (September 19-21, 2022, Hokkaido University, SRC) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nagasaki, Iku
2. 発表標題 On the contact of Kolyma Yukaghir with Russian
3. 学会等名 17th ANNUAL MEETING of the Slavic Linguistics Society (September 19-21, 2022, Hokkaido University, SRC) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 永山ゆかり
2. 発表標題 「ウラル・シベリア仮説」におけるチュクチ・カムチャツカ祖語を検証する
3. 学会等名 日本シベリア学会 第8回研究大会 (2023年2月4日、新潟大学)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 永山ゆかり
2. 発表標題 クンストカメラ所蔵アリュートル語カラガ方言資料について
3. 学会等名 「シベリア先住民諸語の歴史と類型」科研費主催研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nagayama, Yukari
2. 発表標題
3. 学会等名 XXIX- (,) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長崎郁
2. 発表標題 コリマ・ユカギール語の「迂言的過去」
3. 学会等名 日本北方言語学会 第4回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長崎郁
2. 発表標題 19世紀末以降のコリマ・ユカギール語における文法変化: supine の使用頻度から
3. 学会等名 「シベリア先住民諸語の歴史と類型」科研費主催研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 Y. Nagayama, E. P. Pronina, V. R. Dedyk, L. I. Chechulina (eds)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Yukari Nagayama, Kushiro Public University of Economics	5. 総ページ数 219
3. 書名 Siberian Languages 9) (Materials of 1.)	

1. 著者名 Y. Nagayama, M. N. Ammik, L. I. Chechulina (eds)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Yukari Nagayama, Kushiro Public University of Economics	5. 総ページ数 234
3. 書名 (Materials of Siberian Languages 10) . 2.	

1. 著者名 Yukari Nagayama, Vladimir Nutayulgin, Lidiia Chechulina	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Yukari Nagayama	5. 総ページ数 13
3. 書名 A Supplement to the Nymylan-Russian Dictionary: Alutor dialect. Part 2	

1. 著者名 永山ゆかり, タチャナ・ゴロワニョワ, エフドキヤ・プローニナ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東北大学東北アジア研究センター	5. 総ページ数 98
3. 書名 ヒストリーと回想) 2 (CNEAS Report 30) (カムチャッカ先住民の言語と生活: ライフ	

1. 著者名 Nagasaki, Iku	4. 発行年 2023年
2. 出版社 科研費基盤研究(C)「シベリア先住民諸言語のテキストコーパス構築と文法及びその構造的変化に関する研究」、科研費基盤研究(B)「シベリア先住民諸語の方言に関する基礎的研究と語彙データベース構築」 研究班	5. 総ページ数 274
3. 書名 Kolyma Yukaghir Texts	

1. 著者名 Chikako Ono, Jonathan D. Bobaljik, David Koester, Aleksandr P. Volodin & Michael Krauss (eds.),	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Verlag der Kulturstiftung Sibirien	5. 総ページ数 492
3. 書名 Polnyj itel'mensko-russkij slovar'	

1. 著者名 ,	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東北大学東北アジア研究センター	5. 総ページ数 107
3. 書名 : [カムチャッカ先住民の言語と生活 : ライフヒストリーと回想] (Center for Northeast Asian studies report, 27)	

1. 著者名 小野智香子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北海学園大学出版会	5. 総ページ数 304
3. 書名 イテリメン語文法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

https://siblang-jp.net/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小野 智香子 (Ono Chikako) (50466728)	北海学園大学・工学部・教授 (30107)	
研究分担者	長崎 郁 (Nagasaki Iku) (70401445)	名古屋大学・人文学研究科・特任講師 (13901)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年
5th International Symposium on Northern Languages and Cultures. 'Linguistic and Cultural Heritage of Northern and Central Asia: Documentation and Description' (August 13, 2023, Nazarbayev University)	2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ロシア連邦	Institute of Linguistics RAS	Institute for Linguistic Studies, RAN	Kunstkamera (MAE RAS)	他1機関
カザフスタン	Nazarbayev University			
米国	Harvard University	Alaska University		
ドイツ	Foundation for Siberian Cultures			